

## 第121回 病態生化学セミナー

日時：平成30年5月28日（月曜日）午後6時00分～

場所：医学部講義棟1階 国際交流ラウンジ

演題：がんに対する新しいT細胞輸注療法の開発

Development of novel T cell therapy for cancer patients

演者：池田 裕明 先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 腫瘍医学分野 教授

がん免疫療法は長らくがん患者さんの役に立つという期待に応えられていませんでしたが、近年免疫チェックポイント阻害療法が医療現場で大きな成功を収めつつあります。昨年から遺伝子改変T細胞の輸注療法が造血器腫瘍に対する新規治療法として米国FDAにより承認を受け、T細胞輸注療法も新しく有効ながん免疫療法として期待を集めています。

私共は腫瘍特異的なT細胞レセプター(TCR) 遺伝子を導入したリンパ球の輸注療法を国内で開発する唯一のグループとして様々な臨床研究を続けています。最近、難治性滑膜肉腫の患者さんを対象にしたNY-ESO-1抗原特異的なTCR 遺伝子導入リンパ球輸注の臨床試験において顕著な抗腫瘍効果を観察しています。また、T細胞輸注療法を患者さんにとってタイムリーに実施可能な品質の安定した「オフ・ザ・シェルフ製剤」として提供する為に、非自己のリンパ球を用いたT細胞輸注療法の開発を行っています。さらに、有効ながん免疫応答を誘導する抗原として注目される、個別のがんが持つ遺伝子変異由来の抗原、いわゆる「ネオアンチゲン」を標的としたT細胞輸注療法の開発にも取り組んでいます。

本セミナーでは、がんに対するT細胞輸注療法への期待と現況を概観し、私共が進める新規T細胞輸注療法の開発についてご紹介します。

【池田裕明】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp

博士課程選択必修科目：基礎医科学(3)、

博士課程選択科目：細胞生物学I(D6)、老化II(D20)、発生生物学I(D15)、発癌I(D22)、

腫瘍生物学I(D24)、II(D25)、III(D26)、臨床腫瘍学I(D28)、II(D29)、III(D30)、IV(D31)、V(D32)、VI(D33)、地域がん治療学(D37-1)、口腔腫瘍学(D37-2)、薬物動態学I(D70)、腫瘍免疫学I(D79)、理工医学のための生物材料学(D103)

医科学専攻(修士課程)選択科目：

腫瘍の発生・増殖とその制御(23)、理工医学のための生物材料学の基礎(M33)を履修している学生は、できる限りこのセミナーに出席してください。